京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
定價 本紙▲一枚金二錢▲一ヶ月前金四十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲一ヶ年前金三圓五十錢
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
月曜日及び大祭日の翌日休刊（日刊）
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

●東拓所有土地面積

東拓殖會社の現在所有地面積左の如し

▲土地面積▼
出資地 三千七百四十一町歩
買收地 七千四百町歩
賃借地 一万二千〇〇八町歩
總計 二萬三千百四十九町歩

▲小作契約を締結したるもの▼
筆數 十萬七千九百四十筆
小作人 七萬千三百三十六人

▲小作料徴收▼
籾 十一萬七千百四十六石
大豆 三千五百〇四石
金 四萬千二百〇七圓

▲土地調査を了したるもの▼
面積 一萬千三十五町歩
筆數 五萬千九百二十九筆

▲從業延人員 一萬千三百四十二人

▲水利事業の調査を爲したるもの〻内工事施行の見込あるもの▼
見込ある個所 八ケ所
面積 數万町歩
工費見込額 數百萬圓

▲植林▼
苗圃（現在） 三ケ所
苗木 約百萬本
苗圃（擴張） 約十五町歩（杏堂里）

▲作樹養成其他の爲め準備しつ〻あるもの▼
個所 二十七ケ所
面積 一萬町歩

▲直營農場▼
現在面積 十五町歩
明年度擴張面積 二十町歩
果樹數（現在） 三萬三千本
同（擴張） 六萬六千本

民團議員選擧に付て

青蛙

ヤツて來たねナニ忙しいツてソレハ結構じや人間は兎角閑だといかんよろくでもない考を起して大に活動す、がい丶ナニ活動で思ひ出したが民團議員選擧の活動日を逐ふて猛烈なもんだと老人なんか法三章的時代の人間でも小六ケ敷法律んなか不案内じやが何事でも腕じで民團議員でも縣會議員でも國會議員でも誠意誠心國家を思ふ底の人物でなければ駄目だよ議員と云ふ肩書を利用して自己の私腹を肥さんとするダリ〱亡者の寄台じや人民の迷惑選りなもんじやないよ、市町村會縣會議員の綠窓に繰り込まれた者幾十百人であるか、國會議員でしかも學者さし又は宗敎家として令名一世を蓋ふ程の人物と云はれた連中で物質的慾望の爲めに縲絏の辱めを受けた者も少なくない、黄金の人を魍する古今東西同一轍實に慨嘆に堪へんよ、ナニ京城民團議員の候補者は其人格の高き一意專心唯是京龍イナ朝鮮在住民の幸福增進を計るにあつて自己の懐勘定などする卑劣者一人のあるなしじやとアハ、、ソレハ實に何よりも結構じや……だが是等候補者中に深夜人定まつて四隣寂寞將に無我の境に入らんとするの瞬時能く其良心の宣告に對して冷汗背を流れざる者幾人かある老人じやとて人を實ひるに聖人を以てするの愚物でもないがれ前の云ふのはあまり仰山過ぎて洒及ばざるの憾みありじやで老人は千里眼じやないしイヤ北廼り眼鏡をかけれど一間先がや、覺束ないのじやが今候補者とか云ふ連中をズラリ見渡すとれ前の云ふ様な人格の高き人物もないではないがイヤハヤ審にも棒にもかゝらん奴も隨分少なくない様じやてナニソンナに惡口計り言はんで選擧人の心題ぐべき事を云へとソレハ何にも六ケ敷事じやないよ、第一は被選擧人即ち候補者たる者の平常の行爲を調べ其交る處を觀るべしじや第二は候補者たる者の學識の程度を知るべしじや第三は選擧人たる者は自己の利害愛憎を胸中に置くなく全く無慾の狀態にあるべき事じや、以上で澤山じやて……ナニ此候補者を選擧して呉れ投票して呉れと馬鹿めれ前もドツカの振前酒に酔て來たと見ゆるねマテ〱

偈日
蝸居庵中七十年。常裕满酒罵下界
一夜何者送臭風。我有玉壺藏放下著
喝

ソヤモー居らんのか逃げて行く〱に早い奴じやアハ、、、

山中鹿之助

六十八回　西尾麟慶演

前回に申上げました尼子義久没落に就て、皐月早苗之助が勝丸を助けましたが、此の早苗之助は尼子十勇士の一人、未だ義久が播州の上月の城に居りました頃、城下を始め在郷を一日巡檢致しました事が御座ひます、スルと荒地がありまして、夫が無墾を百姓に命じましたが、夫故大勢が之を田にいたしましたが、肝心の水を入るべき處に幅二間長さ五間計りの大きな石があつて、水を入れる事が出來ない ○「何うも困つたものだ此の石が豪く重いで中々取除ける事が出來ねエ △「牛に曳せたら何うだらふ ○「何うする △「此の石へ綱をつけて二三疋で引ばらしたら揚らねエ事もあるめエ ○「夫れも左うだナ、然し牛を曳て來るにした處で、此の邊には牛を持て居る人もねエから他の土地から借て來なければならねエ △「左うだナ ○「中々安くは貸てくれねエ △「誰か力のある奴が此の石を揚げてくれさうなものだ ○「オイ〱其處に居る太郎作れ前平常から力自慢だ、何うだ此の石を取除けて…いてエものだが折角出來た新田が出來しも水が無ければ何んにもならねエ 太「左うだナ然し幾何俺が力自慢でも此の石ばかりは除けゝ事が出來ねエ ○「困つたなア、此の石を取除ねば五十石計しの田地が何んにもならねエ、向ふに殿様が見て御座つらしやる餘り俺達が意久地の無エ様で面目ねエ、何うしたもんだらふ、百姓達が氣をもんで居ります、田の畦に立て見て居りました義久公、義「彼等は何を致して居ると、御傍ねに傍に居りました御家來が 臣「折角新田が出來上りました處水を引きます入口に大ひなる石が有て、夫が妨げをいたします故、何分水を引事ならず、爲に百姓達が困難致し居ります 義「他より水は引ぬか 臣「他に御座ひません 義「ウーン夫は不都合である何か良い工風は無いか 臣「左樣別段名工風も御座ひません、頻りに御家來も心配をいたして居りましたスルト此の新田の傍で遊び居りました十二三になる男の子、之を見て ○「伯父さん何をして居るんだエ △「此の石が邪魔をして田に水を引く事が出來ない、夫で相談して居るんだ ○「此の石を取れば良いのか △「だらヨ、中々取れない ○「坊が取て遣らふ △「何に ○「坊が取てやる △「コレ〱冗談云ふナ、張子の石ぢやアない中々目方がある、村一番の力自慢太郎作でさへ持事の出來ねエ石だ、何んで若前に持るものか ○「持てたら何うする △「持てたら前の望み次第の褒美を遣る ○「夫では此の田地の上り高半分呉れるか △「遣る〱乾度遣る ○「家の爺さまは誠に貧乏で氣の毒だから、俺が此の石を取除けて此の田地の半分貰つたら、爺さまも好な酒も飲めるだらふ、伯父さん大きに有難ふ △「ヤイ〱禮を云ふのは早すぎる、取除けてから禮を云へ ○「左うか夫では乾度くれるナと、云ふて衣類を脱すて素裸体になり、五月雨で水嵩の增した堰の小川に飛込んで、其石へ手をかけたがウンと力を入れると、ガズ〱〱水を切て其石を取除けました、其取除けた口より、ドーと田へ水がゆく、之を見て驚いた百姓 △「何んだ此の小僧は、人間ではねエ鬼の様だ 小「伯父さん約束だから此の田の上り高を半分貰ふヨ △「ヤイ〱冗談だ、小「ヤ冗談とは云はせない、約束通り此の上り高半分はもらふ △「夫はだめだ、俺一人の田ではねエ、村内大勢で作へた田だ、和前に遣る譯にゆかねエ、小「今になつてそんナ事を云ふのは伯父さん嘘吐だ △「何んと云はれても是は遣れない、頻りに爭つて居ります、義久公何事が始まつたかと御家來を呼で質ねるに、御家來より此の事を申上げる義久之を聞れて小僧を呼べと仰せられる、家來バラ〱と夫へ參りまして 臣「コレ〱和前は何處の者だ 小「ハイ、私は此の村の與左衛門の倅與四郞と申します 臣「何歳だ 小「十三で、臣「唯今其方の大力、御感心を遊ばして主君が、其方に會たいと申す、一緒に御前へ出ろ、



▲総督と制令権 東京電報(廿八日) [illegible]

▲朝鮮森林法 [illegible]

▲朝鮮法律案附議 [illegible]

▲貴族院と[illegible] [illegible]

▲下院予算総会 [illegible]

▲商法改正案 [illegible]

▲ペストと排外熱 [illegible]

▲鉄道負債総額 [illegible]

▲国民党の役員 [illegible]

▲勧銀株主総会 [illegible]

▲ペスト予防法案 [illegible]

●駐屯軍御慰問 [illegible]

●国境防疫自衛隊組織の議 [illegible]

●自由渡航を防止する [illegible]

●経費は一切総督府より下附 [illegible]

●国境に侵入 [illegible]

●警務総長の報告 [illegible]

●防疫評議員会 [illegible] 小原地方局長、小城鉄道局技師、岡本逓信局技師、中野警務官列席評議し午後四時散会したり

●度支部の訓令 度支部長官は各税関長にペスト予防に関し今回左の如き訓令を発せり
満洲に於けるペストは益々蔓延の勢あるにより此の際予防上一切の手段を尽すべし大豆小豆唐玉黍其他食料品及食用原品は充分消毒する事能はざるが為め防疫上自然疎漏なきを期し難きに付右各品は府令第四号により輸入禁止の取扱をなすべし

●隔離収容五日 二十七日明石総長はペスト予防に関し新義州仁川其の他関係各警務部に左の如く電命したり
ペスト予防の為め本年一月警務総監部令第二号による隔離所収容期間は三日とし取扱居りしも延期の必要を認め本日より五日以内と改正す

●北満の罹疫者数 露国官憲にては一月十二日より同十四日迄三日間に於けるペスト病新患者数を公表したるが哈爾賓市に清国人六十六名露国人四名と阿什河に清国人二名祭家溝に清国人二名及び寛城子駅に清国人一名にして外に傅家甸に於て同三日間に新患者清国人三百四十九名にして初発以来同日迄の患者清国人千二百七十九名内死亡千二百五十名内日本人二名死亡したりと

●防疫守備隊援助 新義州に於けるペスト予防援助の為め当地より二十余名の憲兵を増派したるも昨今満洲各地の病勢益々猛烈となり時々接近しつゝあるを以て新義州より義州に亘る沿岸一帯を厳重警戒の必要を認め更に同地守備隊の援助を求め居りと云ふ

●愛国婦人会講演会 二十八日午後一時より京城日本人商業会議所に在京城愛国婦人会員五十余名参集ペスト予防に関し藤田軍医監森安博士の講演会あり午後四時散会したり

●郵便物の消毒 逓信局はペスト予防の為め満洲各地及大連方面より到着すべき郵便物に対し消毒の必要を認め今回新義州及仁川郵便局長に命じ一般郵便物の『ホルマリン』消毒を為すべき旨電命したり

●内地各港検疫開始 内務省は満洲のペスト伝染予防の為め神戸、横浜其他各港の検疫所に対し大連方面より入港の船舶に対し一々検疫し荷物を消毒すべきことを命令せり

●防疫支部主任任命 回平安北道警務部長をして新義州地方防疫支部主任に任命したりと云ふ

●慶北慈恵医院現況 慶尚北道慈恵医院の開設即ち明治四十三年九月七日より本年一月十四日に至る約四ヶ月に於ける治療患者総員一万七千六百八名治療日数総計二万五千四百十二日にして之れを内地人と朝鮮人とに区別すれば内地人五二、五二三名、内男二、三一八名、女二、九三五名、朝鮮人一二、三五五内男八、九一五名、女三、四四〇名右患者中入院と外来とを区別すれば入院一、八五〇名、内地人一、二九四名、朝鮮人五五六名来一五、七五八名内々地人三、九五九名、朝鮮人一一、七九九名日々の外来患者は少きは二百名内外にして多きは三百名に近きことあり冬季に至り一般患者の減少及時候の関係上稍外来患者減少し現今日々百名内外より百四五十名の間にあり而して受診患者は独り慶尚北道管内の遠近より来る者のみならず従来の患者に就て調査するに慶尚南道全羅南北両道忠清南北両道咸鏡南北道平安南道江原道等の各部より来ると云ふ

議員候補者漫評 △△生

▲中村再造君 君記者に語りて曰く予は民団議員の葬式を受けんと欲す故に生涯競争は断念せずと其露骨なる心情豈に擲すべからずや思ふに吾が民団に中村再造君あるは恰かも深山に巨木あるが如く軽重相関せざるが如くなるも而かも深山は之あるが為に其価値を成せるなり而して天翼爛熳は君の特点にして又棄つべからざる元老たらずんば非ず

▲淵上貞助君 君は故休兵衛氏の令息にして鹿児島県の人たり二十余年前渡来し爾来屡々居留地の公職に挙げられ貢献する処頗る多し龍山市民君を評すらく君は淳庵なり縦令鋼の刺身の滋味なしと雖も噛むに随つて味を生ず此の比喩を藉りて君の漫評に代へん

▲大村百蔵君 龍山に於ける大村百蔵君は確かに一種の異彩たるを失はず君今回の選挙に就ては断然辞退せん希望なりしも其撃留は遂に隠退を許さざりし亦以て君の鼎重きを知るべきなり君責任甚だ活淡又些事に凝滞せず殊に事を見る頗る公明なるは世既に定評あり

▲原勝一君 勧農会計専務取締役原勝一君は如何なる人乎、曾て下関市長の栄職に任じ彼が如く紛糾混乱を極めたりし同市の水道問題をして円満に解決せしめたる手腕は何人も推称措かざる処なり今や推されて京龍聯合軍の候補に立ち逐鹿場裡の人となりぬ自治政に如上の経験才能ある君の如きは確かに鶏群の一鶴たらんか

▲渡邊與三郎君 曾て仁川に在りて民団議員に任じ後龍山に移住して現に議員の公職に在り明治法律学校の出身にして法律の素養あり且つ其熱誠は多事多端なる京城民団議員として適任者の一人たるを疑はず

●金融組合貸出額 慶北金融組合にては昨年十二月中割合に多額の貸出をなしたる為め一月に入り松田理事の出張と相待つて充分貸出を引締りたる由なるが其申込額に至つては恰も鮮人正月節季に際し居りたる為め買牛人夫賃雑貨の買入等にて二十六日迄に於て申込口数四十に昇り其額に至つては千六百円以上に達したる由なるも実際貸出せし金高は僅かに十三口に対する五百七十五円にして一口最低四十円最高五十円位の割合なる由

●海苔製造法講習会 朝鮮に於ける海苔の主産地は全羅南道の長直路海、莞島、荏子島、蝟島の各島にして其製産額も又莫大なる者なれど製法等に至つては未だ甚だ粗悪を極め加之多くの介殻等混在し商品としては劣等の部に属するは夙に当業者の遺憾とする処なりしが今般道庁に於て右製造法の改良をなさしむる趣旨を以て羅水郡順天郡、突山郡の各沿海地より講習生三十名を募集し会期は本月二十八日より向ふ六十日間とし海苔製造法等を実地に就て伝習し旁ら海苔養殖法等を口述し大に製品の改善を為さしむる筈にて教師として全羅南道庭林技師は渡邊助手を随へ二十六日木浦を経由し会場地たる光陽湾へ向け出張したる筈なり

●移民と其貸地額 東拓殖民に対する全北地方の貸与地価は水田にて金堤、金溝、泰仁、井邑、古阜各郡地方は各二十円にして又た連山は三十円乃至三十五円魯城は二十五円乃至三十円石城は三十円なりといふ

●平南の養蚕成績 四十三年に於ける平南道の養蚕は家蚕飼育者七千四百十三戸其収繭量千九百三十五石にして内三千七百五十戸は全部製糸して機織の材料に使用し製糸外蚕繭の七分は真綿を製して自家用とし残余三分の繭を附近市場に売買す而して作蚕繭糸は道内に産せず平壌附近の機業者は北道より購入し居れり

●選挙事務ご休日 当民団の選挙事務担任者は昨今種々の問合せ申込みやにて幾んど忙殺され居るの有様なるが尤も多きは選挙競争の結果に基く選挙人名簿脱誤方伺出にして這は縦覧期間内に申出づべき規定なれど可成其便利を図らん為め受附け居れど独本日限りに差止め且二十九三十の両日は休日なれど依然出願事務を執るべし

●選挙事務補助員 今回の民団議員選挙に就ては民長は法規の許す範囲内に於て特に民団より六名の補助員を嘱托したるは既報の如くなるが此は内地に於ける選挙会立会人と同様なるが如く報道したるも実は全く其性質を異にし単に民長の選挙事務を補助するものに過ぎざるに往々立会人と称呼し之を同一視するものありて誤解し居るやの嫌ひあれば一般有権者は決して誤解なき様当事者は希望し居れりと

選挙界彙報

▲又々新団体起る 雨後の筍の如く簇出して殆ど底止する処を知らざる各種の撰挙団体は現に無慮十七の多きを算せるが又々南大門外川本準作氏を中心とせる龍山西部革新会起り左の十氏を候補に推薦せり
川本準作、大村百蔵、泉古蔵三、原勝一、竹内菊太郎、海津三雄、中島司馬之助、徳久米蔵、村井甚七、深水清

社告

当地民団議員の選挙競争は今や其の頂上にあり而して其の各候補者の活動振り如何は読者の一刻も早く知らんことを希望せらるゝ所なるべきを想ひ本社は三十日月曜三十一日大祭の翌日の両休日を発刊し更らに三十一日投票締切の結果其の当選者は迅速号外を以て報道すべく而して二月二日の本紙は臨時休刊す

一月 京城新報社

▲龍山と正義同志会 中島安邦氏等の一団体たる正義同志会推薦候補者中には龍山の九名組より億久兼古大村の三氏を撰定しあるが之が為めに他の六名の感情を害し目下悶着中なり其結果右三氏は最の候補推薦を辞退すべしと

▲南高同志会総会 二十七日より活動を開始せる南高同志会は同夜其事務所本田旅館に総会を開きたるが出席者六十余名の多きに達し各自の運動部署を定め二十八日より実行に着手したり同会は会員百五十余名を算する頗る強の一団なり

▲梅笑氏と義太夫組 義太夫界にて梅笑と言へば錚々の聞ゆあるが同組は全部挙つて其本人高橋章之助氏を推挙する由

▲選挙と臨時列車 鉄道側にては全部投票するに決したるが通勤者の便宜と龍山市民の為めとを慮ひ三十一日の当日は午前八時及午後四時の臨時列車を運転する筈なり但し時間は更に発表すべし

▲実業同志会活躍 実業同志会は本町通市区改正を標榜して起れるが此旨一応各有権者に通じ其同意を得たればとて愈々二十八日より大々的活動を開始したり

▲各部候補者総出 今や撰挙期日も目睫の間に迫り五二三日間が最も大切の時期なるを以て各部とも二十八日より当直を廃し全員総出にて運動中なり

▲督玉有権者予防 投票は絶対に代人を許さゞる規定なるが今回の如き激烈なる競争に在ては種々の奸策を以て有権者を籠蓋するものなきも保せず故に民団にては二十八日より外勤者に命じて左の事項調査中なり
一、名義のみ存じて現に本人の在留せざる有権者
二、旅行中又は疾病の為めに投票場に出頭し得ざる有権者

▲孤身奮闘の田中氏 田中常次郎氏は有力者の後援により単騎陣頭に立ち京龍方面に亘りて奮闘中なるが氏は前回の撰挙に方り僅に一票の差を以て敗戦せし経験に顧み今回は一層の力を傾注し居れり

▲深水氏除名問題 深水清氏の背徳問題に就ては西部の激昂甚しく遂に除名を決議するに到りたるは既報の如くなるが之を耳にせる同氏は顔面色を失し直に車を飛ばして某々有力者に仲裁を哀願したるが其結果同盟候補者の面前に於て或る誓を為し謹慎の誠意を表して僅かに決議の執行を免れたり

▲南部署長の戒告 南部警察署長今村警視は撰挙界の形勢推移を観望し苟くも不祥事の演出なからしめんと欲し部下の刑事をして各事務所を歴訪せしめ左の意味の戒告を与へたり
撰挙取締は保安法を適用し又一方内地の撰挙規則をも準用して毫も仮借せざれば各自一層の注意を望む

●松本薬剤官東上 松本一等薬剤官は二十七日龍山発列車にて東上せり、

●大目立中佐出発 大目立中佐は警備状況視察の為め二十七日龍山発列車にて新義州方面に出張せり

●雑誌新半島出づ [illegible]
言ふ如何にも新刊雑誌の如く[illegible]は然らず第七巻第一號[illegible]て本誌は久しく京城の名[illegible]りたる山盧亞川氏主幹[illegible]『鶴ルピ付』し載する處[illegible]寄稿あり趣味津々として[illegible]伯松井金澤爾野各博士を始[illegible]讀亞川氏の文才を睹ふを得[illegible]所大和町新半島社定價二十[illegible]

▲仁川港ノ出入船舶
▲諏訪丸 廿九日大阪より入[illegible]
澤州丸 同大連へ向出港

▲京龍鐵道の貨[illegible]
▲南大門驛乗降客 二十七日[illegible]
乘車客 七三九 [illegible]
乘車賃金 一八八三、九二[illegible]
▲南大門驛貨物發送高 二十七日[illegible]
發送 六〇噸 [illegible]
貨物賃金 七一八、二五[illegible]
▲龍山驛乗降客 二十七日[illegible]
乘車客 一六九 [illegible]
乘車賃金 二八六、三九[illegible]
▲龍山驛貨物發送高 二十七日[illegible]
發送 一二一噸 [illegible]
貨物賃金 四一九、八五

▲京城手形交換高

一月	金高	枚數
廿八日	一〇九、三五一、〇〇[illegible]	[illegible]

▲治外法権▼ 大逆事件[illegible]徒は其死に臨んで無霊魂、無[illegible]んだ、無霊魂、無宗教、而し[illegible]人生観や険悪になつて遂に[illegible]犯した、アー恐るべきは実[illegible]無宗教の説だ▲創立間際[illegible]鼎に前景気が良さソウに[illegible]業会社が益々株式の募集を[illegible]控をした、加藤の後ろに[illegible]て株式界から葬らるべし[illegible]東に因ると普通人引受株が[illegible]つた、然るに現在では各書[illegible]藤鈴久等の魂膽と知つた[illegible]を引いて十八万が四万に減[illegible]なつて来ると成立が疑問だ[illegible]立ての本欄で有吉総務部長[illegible]褒報したが、昨今の報道に[illegible]の褒報がナンダカ的りソウ[illegible]低く、特に滿鐵の質、到底[illegible]官たるに堪えずだ▲假りに[illegible]としたらサテ其後釜に据は[illegible]か、石塚か、小松か、ソレ[illegible]らの薦移入か、時に傳者あ[illegible]の吉原が有吉に代はると、[illegible]ら肺病と脊髄病との入れ替[illegible]議員の選挙競争が益面白く[illegible]面白いと言はんよりは寧ろ[illegible]殆んど底止するところを知[illegible]た、候補者の續出、運動員[illegible]に継ぐに叩頭を以てす、[illegible]者たる亦た難いかなだ、[illegible]効の秘訣だ、諸子須らく叩[illegible]て勝敗を決すべしだ。

京城居留民團議員選擧人名簿(十)

(明治四十四年一月調)

廣瀬芳次郎 青山堪三 [illegible]藤和次 十川二郎 早田耕吉 寺尾勝六 坂本政五郎 小原藤吉 島川恭佐 百岡啓治郎 末松田美彦 ●西小門官舍 伊藤重俊 小田省吾 倉富勇三郎 ●西大門通 伊藤金藏 外山石英 秋千光久 梶原武一 野田義夫 吉田武一 筧井八郎 木野智 平良末次郎 ●[illegible]路通 伊藤重次郎 [illegible] ●[illegible]洞 [illegible] ●獨立門通 [illegible] ●光化門通 [illegible] 松永房七 佐久間良次 森下茂豐 ●西小門通り 石井米逸 大竹謙太郎 [illegible] ●昭義門通り [illegible] ●西小門外 林田重太郎 [illegible]原文吉 ●[illegible]橋通 伊[illegible] 香月源太郎 山口鶴次郎 秋葉格太郎

●西大門鐵道官舍 川端守一 津之地周吉 村上謙 黒崎美智雄 古川敬介 佐藤正規 坂野文之助 芝田慶次郎 斯波卯之助 百瀬波雄 田中熊八 林原憲貞 吉池泉 松本竹男 新井長平 奥柳吉 神野直市 樫棒嘉藤 野坂信捨 松原制六 佐々木官十郎 鍍輪庫之助 岩本英夫 大楠消 高橋金吾 淺井龍造 水上太助 中井芳次郎 木尾鹿之助 橋邊豐藏 吉野新平 久保田三郎 後藤二與吉 阿部準輔 佐々木喜三郎 森初太郎 林秀一 富田源太郎 日下文次郎 秋山蓮四郎 宮本壽一 宮谷忠 俵孫一 中村竹藏 村上謙 山邊勇輔 深尾鶴恕 坂出鳴海 疋田玄龜 井上伊代吉 堀内武治 大浦嘉吉 灘波半藏 松枝喜之助 秋山時太郎 木村盈三 三谷忠三郎 本田常吉 山口一郎 花田鍬太郎 田中榮治 松宮竹次郎 淺野節

青松幸次 鳥阪洋吉 村田孝一 草道武二 江口寛治 佐藤又次郎 笹島定治 新城重八郎 森山嘉多男 鈴木重民 波多野德太郎 田中熊八 保母純一 渡邊綱吉 梶本益一 武藏文吾 歐枝博 近藤左右一 佐波龍作 清水東雲 橋本龜太郎 渡邊文作 高橋章之助 安藤和一 白石亦記 山田金次郎 下野浪登 土肥貞市 中桐岩吉 栗本鐵藏 江原忠六 赤間嘉之助 木寺勝作 羽阪勇吉 大島專三 安山親義 佐伯融 平岩内藤太郎 德廣定三郎 高木喜作 中島一郎 梅田增太郎 安住時十吉 遠藤八十吉 岸田常吉 鈴木文六 生野覺吉 大野洗吉 川内七兵衞 野上作太郎 古川孫助 安藤助七 木村長藏 平山芳松 本田初藏 丸山健太郎 二町經雄 内山嘉吉 江口乙平 下湯要一

三宅長策 ●紅葉町 奥村留吉 阿部太吉 ●西大門外 總川新 中村富次郎 ●東大門通り 今宮芳太郎 大和田盈 久保末三郎 須田赳夫 ●馬頭山官舍 内田徒志 ●惠化門通り 宇野周平 清水敏郎 ●幸町 豐木治作 杉戸安一郎 ●末廣町 神垣元次郎 山田桂三郎 ●[illegible]町 山際福松 ◎新明町 間庭新十郎 佐藤銓 森永重太郎 ◎鑄洞 稲垣清三郎 ●長橋 吉川五三郎 手島重規 ●新橋通 池田敬次郎 野村壽三郎 ●水標橋通 伊藤忠藏 豐本三保吉 淵上友次郎 ●竹添町 犬塚周之助 大平文治 森鹿太郎 ●北部 竹添謙吉 中井研二 藤田良人 平久新太郎 ●西部 緒俣清三 大槻吉三 信原嚴虎 秋山幸衛 酒本榮太郎 ●南部 井手勝水 大澤啓止 大内眞澄 增田英信 佐々木常人 白田五平 ●中部 大井平太郎 川島貞吉 永瀬[illegible] 竹内堯三郎 藤室仙太郎 甲田金次郎 秋田金次郎 廣田早内 ●青葉町 岩本峰太郎 橋本鶴吉 土井數義

平野武 河村友次郎 佐々木政右衛門 錦織足善代 稲村入藏 河野篤造 森京右衛門 梅野榮一 山本幸太郎 長棟六郎 荒波爲吉 宮崎省吾 手塚源三郎 平原庄太郎 中山末吉 海浦篤彌 本明宇平 小谷竹次郎 池上英三郎 吉本惠七 頭入亟一郎 田中七太郎 須田米吉 谷田部幹 香村幹助 江川財次郎 川瀬龍二郎 中尾太直 松浦袈裟藏 淺井半次郎 宮坂重郎 植井鐵之助 川瀬文太郎 納富乙吉郎 間宮幸彦 樋下田仙造 瀬崎喜太郎 尾崎正雄 甲斐龜太郎 大久保又雄 永谷隆志 牧野吉太郎 香月千代吉 更田信三 森脇又熊 池田元助 西川通徹 鬼塚滑

杉浦幸次郎 玉垣利吉 鬼頭謙次郎 渡邊正丸 友田鐵之助 田代俊太郎 膳鉦次郎 鈴木文平 白石金八 手島章平 進安太郎 足立四郎 森鶴藏 内田良平 小林治一郎 尾山七三郎 坂井光次郎 堀佐太郎 高橋英直 大石仙之助 柳澤與作 中島辰吉 津田鍛雄 惡孫太郎 田中圭三 筒井勇三 松村明八 淺井政一 今瀬金太郎 渡邊宇太郎 山本富藏 淵上榮藏 森伊三次郎 河野武熊 田畑柳平 田中福太郎 丹羽健太郎 小林淳 手島藏吉 三垣袈裟太郎 飯田増之助 豐田藤助 高橋留三郎

中野才次郎 藤田榮市 古垣喜四郎 安立示次郎 齋木初藏 三澤銀次郎 嶋田嘉吉 ●東部 乾鎌之助 青木高四郎 三宅彦七 澁谷一 平野貞次郎 平野幾 ●東四軒町 田村亥之助 武智喜彌太 谷岡五二郎 中野次郎 松尾政太郎 双原佐吉 白澤道太郎 下郡山誠一 ●西四軒町 中川與一 能勢純 ●下水洞 八阪二老吉 阿部須磨 齋賀次作 ●二葉町 川端美壽次 荒川九郎次 阪又三 ●笠井町 井田友雄 限部熙 增永年七 ●典洞 相嶋清 松村國太郎 舟津盛太郎 御座岡吉之助 富士盛健一 ●昌德宮 太田豐 呼子友一郎 ●弘德里 棚橋清吉 中尾常次郎 ●田町 宮原藤太郎 宮脇政市 ●大林洞 内田金作 ●東雲町 稲葉保次 ●柳榮洞 鷲田長一郎 ●養子洞 大堺義助 ●會洞 小野又四郎 ●小龍洞 上村與吉 ●樓洞 高野彌太郎 ●若葉町 永尾利吉 ●林町 門義雄 ●於義洞 中村長太郎 ●双林洞 大樂勝助 ●松井洞 小林伊助

報 部

特選 歌かるた

△北白川宮家に於ける小倉百人一首に戀歌多かるを憚らせ玉ひて北白川宮家にて特に御歌所員植松有經氏に仰せ下され古今集中より四季の部並に賀の部より二百首を撰び出さしめ更に其の内より百首を撰ばしめ玉ひたることは弘く傳へられたる事なるが今百首を承るに

鶯の谷よりいづる聲なくは春來ることを誰か知らまし

常磐なる松のみどりも春來れば今ひとしほの色まさりけり

君ならで誰にか見せむ梅の花色をも香をも知る人ぞ知る

春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隱るゝ

今年より春知りそむる櫻花散るといふ事は習はさらなむ

世の中に絶えて櫻の無かりせば春の心はのどけからまし

見渡せば柳櫻をこき交ぜて都ぞ春の錦なりける

あだなりと名にこそ立てれ櫻花年に稀なる人も待ちけり

我が宿の花見がてらに來る人は散らなむ後ぞ戀しかるべき

待てといふに散らでし留る物ならば何を櫻に思ひまさまし

此里に旅寢しぬべし櫻花散りのまがひに家路忘れて

うつ蟬の世にも似たるか花さくら咲くと見し間にかつ散りにけり

櫻花散らば散らなむ散らずとて故里人の來ても見なくに

花散らす風の宿りは誰か知る我に敎へよ行きて恨みむ

ひとめ見し君もや來るとさくら花けふは待ちみて散らば散らなむ

はる霞なに隱すらむ櫻花散る間をだにも見るべきものを

垂れ籠めて春のゆくへも知らぬ間に待ちし櫻もうつろひにけり

ことならば咲かずやはあらぬ櫻花見る我さへにしづ心なし

▲久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ

春風は花のあたりを避きて吹け心づからやうつろふと見む

雪とのみ降るだにあるをさくら花いかに散れとか風の吹くらむ

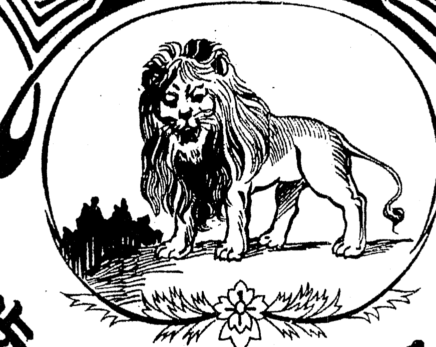
春雨のふるは涙かさくら花散るを惜しまぬ人し無ければ

故里となりにし奈良の都にも色はかはらず花は咲きけり

春の色の至り至らぬ里はあらじ咲ける咲かざる花の見ゆらむ

いつまでか野邊に心のあくがれむ花し散らずは千代も經ぬべし

花の如世のつねならば過ぐしてし昔はまたも歸り來なまし

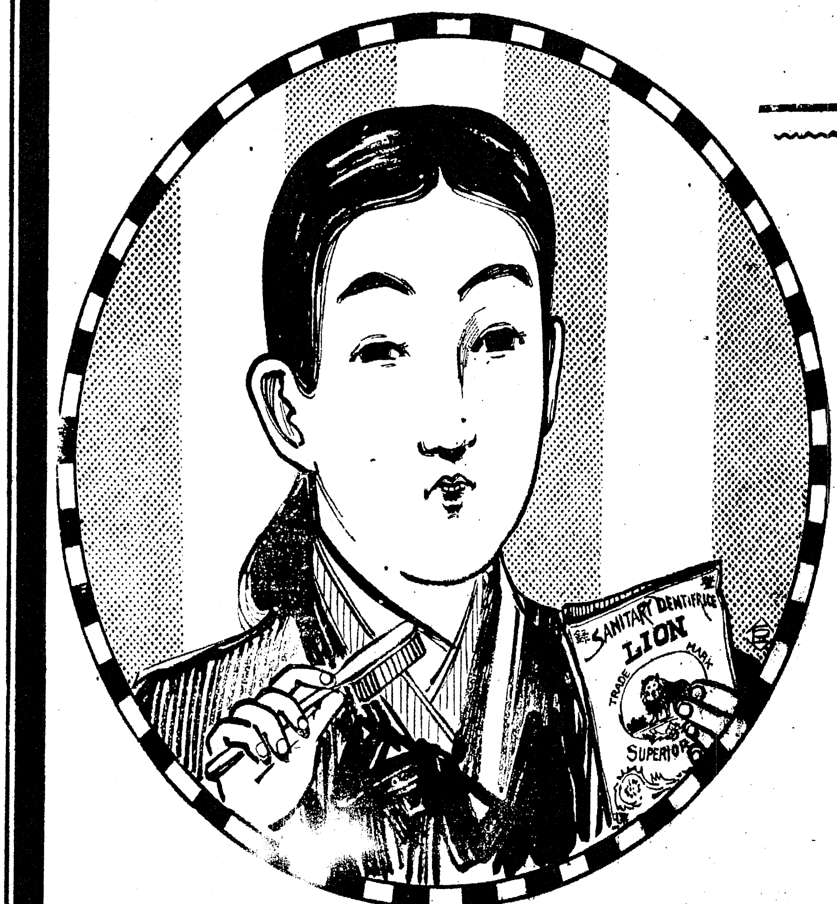


獅子印라이온齒磨

ライオン齒磨（はみがき）

齒は食物を咀嚼する機關なれば常に强健なるを要す。腸胃其他の疾患にして、齒の悪しきより起るもの甚だ多し。又齒の良否は言語の利訥、顔面の美醜に大關係あり。ライオン齒磨は苦心多年、最良の材料を以て最良の製品を供給す。其品質の他を壓するや言ふ迄もなし。起牀の時、就寢の時、必ずライオン齒磨を使用して、齒を清く丈夫にせば、齒一切の病氣を忘るゝのみならず、自然に飮食の消化を助け、自然に身体の强健を遂げ、口中の悪臭を去り、言語呼吸の間にも芳香馥郁として精神を爽快にすべし。殊に容器は嚴密完全を期し、体裁亦美なり。さればライオン齒磨は今や世界到る處に愛用せられ、製造に費す所輕きが故に、格別の廉價を以て盛んに供給せられつゝあり。

齒牙는飮食을咀嚼ᄒᆞ야몸을强健ᄒᆞ게하되만일咀嚼홈하難ᄒᆞ야消化치못ᄒᆞ면몸을脆弱하게ᄒᆞ나니곳腸胃듸은關係가有ᄒᆞ을분더러各種의病을釀ᄒᆞᄂᆞᆫ原因이되고至於小兒ᄒᆞ야도亦然ᄒᆞ온지라그成長ᄒᆞᆯ時에乳齒로飮食ᄒᆞ咀嚼을잘ᄒᆞ면잘消化ᄒᆞ야몸이健壯ᄒᆞ고잘못ᄒᆞ면消化ᄒᆞ기야難ᄒᆞ에몸이殘弱ᄒᆞ야지나니그런고로齒牙란것ᄂᆞᆫ老幼를勿論ᄒᆞ고生命에크게相關이되옵父兄되시ᄂᆞᆫ이와子姪되시ᄂᆞᆫ이가매우合가ᄉᆞᆯ일이오며또齒牙ᄂᆞᆫ言語의利訥과顔面의美醜에關係도甚大ᄒᆞᄂᆞᆫ지라今此라이온齒磨粉은最良ᄒᆞᆫ材料를極擇ᄒᆞ와製造　ᄂᆞᆫ것시압고또多年神効의經驗이有ᄒᆞ오며그品質이與他自別ᄒᆞᄂᆞᆫ지라起枕ᄒᆞ실ᄯᅢ와就寢ᄒᆞ실ᄯᅢ에齒牙를닥ᄭᅳ시면니가白ᄒᆞ야지고니몸이堅固ᄒᆞ야지고비록셩긘니와덧니비아라도고르게셔지올터이오며蟲齒와風齒와諸般齒痛의念慮업삽고또니가쇼ᄉᆞᆯ염녀업삽고飮食이自然消化가잘될터오이몸이自然健强ᄒᆞ실터이오口中에惡臭가無ᄒᆞ와言語呼吸之間에라도芳香이馥郁ᄒᆞ고精神이爽快ᄒᆞ오이실터외다兼ᄒᆞ야封紙의모양도보기됴흐니그런고로地球上에到處마使用ᄒᆞ시ᄂᆞᆫ이만흐시고또製造ᄒᆞ기에도所費가輕ᄒᆞᆫ고로甚히廉價가되옵나니다



發賣元　東京市神田區柳原川岸　小林富次郎

支舖　大阪市東區博勞町二丁目
名古屋市西區傳馬町四丁目
清國分行天津、漢口、上海

代理店　京城南大門通三丁目　新井藥房
京城本町三丁目　森久商店

振替貯金口座番號改正
大阪 貳番
大阪市東區博勞町二丁目八十七番屋敷　小林支店小林富次郎
追て從來使用致し來り候一二九四七番は使用不仕候

活動寫眞 朝の南大門驛

(二十八日)降り降らずみの雲ちらくと [illegible]

宮内省獻上品 朝鮮總督府出品

大小二個の木箱 [illegible] 二十三斤 [illegible] 百六十三斤

防疫軍第三團

民衆の安寧福祉

感謝

[illegible]

●日の出樓主の罪状

[illegible]

人事に赤旗白旗

[illegible] 火曜日と金曜日の [illegible] 人に對し大消毒法 [illegible] なりたる由なるが [illegible] 消毒を了へたる者 [illegible] 消毒濟みの赤 [illegible] 變付さるにより市 [illegible] 注意して白旗を所 [illegible] に乘らざるてと白 [illegible] ざる冰脈苦力亞摩 [illegible] を受けざることを

……旅館業主水鹿之助 [illegible] て妻ゆきの名義に [illegible] の年齢不足なるを [illegible] 賭造數啖して檢 [illegible] れし事は既報の如 [illegible] 書類決して兩角檢 [illegible] されし罪跡を聞く [illegible] 末川某女を介して [illegible] て酌婦を爲し居り [illegible] を娼妓として前借 [illegible] 雇入れたるが營業 [illegible] 書類其他雇入年期 [illegible] 之助は十二月十三 [illegible] 政吉方に赴き前借 [illegible] の契約を結び政吉 [illegible] 本其他の書類を鹿 [illegible] きくのが生年月日 [illegible] あるより七の字が [illegible] は格別然らざれば [illegible] 改めよと教唆した [illegible] 藤邦助の妻かねに [illegible] を持ち歸り南部署 [illegible] し檢事局に送らる

各人注意せよ

此の頃家屋 [illegible] の用紙に文字不明 [illegible] 役官吏と詐稱取財し [illegible] 大門分署刑事之を探 [illegible] せしよし夫れく [illegible] 警察に照會あれ

各署の鼠買上數

(各 [illegible]) [illegible] に捕鼠の奨勵に從 [illegible] 七日の分は北部署 [illegible] 分署七十南部署五十 [illegible] 東大門分署四十五本

南部署の活動

南部署は二十 [illegible] 劇場其の他公衆の集 [illegible] 散しペスト豫防に關 [illegible] あり

●曲物 [illegible] 吉敷郡大内村當時 [illegible] 松本隼吉(三三)は窃盜 [illegible] 一月二十六日午後十 [illegible] 官職増田喜齡太郎 [illegible] (代十八圓を窃取

●ボヤ二件 二十七日午後八時二十分西部[illegible]二十統二戶南昌熙方軒下に置きありし松葉に煙草の火より發火半燒一戶▲同日午後三時四十分盤松坊萬里峴百三十統四戶朴召史方温突の附近に置きありし松葉より發火同半燒

●賭博 長崎縣人若草町二丁目二十三番戶瀬川鶴松(四三)大分縣人當時笠井町今村四郎吉(三四)香川縣人當時本町八丁目石塚秋吉(三九)の三名は二十七日午後十時二十分頃より瀬川鶴吉方に於て金錢を賭し博奕を爲し南部署に檢擧され目下取調中

●科料 富山縣苫田郡當時龍山本町二丁目番地不詳人車挽子光井嘉吉(五七)佐賀縣藤津郡久間村西山當時同地櫻田町同職鐘ケ江金之助(三三)の二人は二十七日賭博の爲め憲兵分隊に引致せられ各科料に處せられたり

●竊盜 南部[illegible](十三)は二十四日午後六時頃本町六丁目五十番戶田村儀次郎氏方にて障子三枚外數ケ所に於て金品竊取檢事局送らる

●警戒 東大門分署に於ては歲末に際し強盜竊盜其の他の被害を警戒の爲め二十八日より二日間非番巡査を召集夜間巡行警邏せしむ

仁川防疫彙報

▲捕鼠懸賞 昨紙所報の如く仁川警察署にては愈廿八日より買上の捕鼠に對し一頭毎に抽籤券一枚を交附し五千頭に達したる時抽籤を以て右の懸賞を行ふ由

一等三十圓一本 二等十圓二本 三等五圓五本 四等一圓三十五本

▲捕鼠買上數 二百十七頭六圓五十一錢

▲傳染病發生 愛媛縣温泉郡堀江村當時仁川支那町三丁目大島岩吉内縁の妻金子ウタ(五十)は廿七日腸窒扶斯に罹かれるを以て其筋より出張消毒の上仁川分院に收容せり

●京城座 毎日樂隊を以て配付しつゝある割引券十五錢均一にて非常なる人氣を博しれる兄弟義團廿九日の藝題は不思議なる面會七幕十二場なる由

日曜集會(廿九日)

●京城基督教會(日の出町)同教會にては廿九日午前九時より日曜學校同十時より禮拜說教及び米澤牧師の禮拜說教「感激の生涯」午後七時より同牧師の傳道說教「基督の品格」ある由

●日本基督教會(旭町四丁目)にては廿九日午前十時より平山牧師の禮拜說教「信仰の目的」午後一時より日曜學校同七時より渡邊暢氏の傳道說教「キリスト教に於ける人の地位」ある由

●日本メソヂスト教會(旭町二丁目)廿九日午前九時半より日曜學校聖書研究同十時半より木原牧師の禮拜說教「吾等の住所」午後七時より同牧師の傳道說教ある由

●微笑會例會(初音町)二丁目臨濟寺に於て廿九日午後三時より宗門無盡燈輪例會提唱ある由

●取消 拜啓貴新聞明治四十四年一月二十八日第六百十二號紙上選擧界彙報欄之深水氏の除名問題に關する件は事實無限に付御取消相成度此段願上候也 明治四十四年一月廿八日 西部選擧事務所 京城新報社御中

▲平民文庫▼

▲讀者諸君よ小生は當年二十歳の一男子ですが十六歳の春頃より顔一面ににきび出來實に困却して居ますが極安價で速に癒る名法を御存知の御方は乍御手數當欄迄御通知下さい(大和町チイバリ生)▲僕が南山町一のそばやへ喰ひに行たらなまめかしい別嬪が二人居る聞ければ落る風情がある僕其口占を引て見たら容易な妙味があるらしい一酌の下にポチを奮發して見玉へ何等かの效驗あることは受合だほんにそばやには珍しい掘出物よと思ふて紹介する(アール・ワイ生)▲正月になつたら此の寒さも厭はずペスト軍が近寄つて來たので仁川の如きは輸入貿易品に云ふ迄でも無く豫防に勉め近頃は警察では巡査を各戶に派遣して捕鼠方を勸誘して居る樣だ此の際個人に於ても該患に犯されぬ事に注意周到なれ(老婆)▲仁川は宮町寒洋軒の隣では英語研究所を設立して該研究に盡瘁して居る樣だ該研究會に入會せんとする者は速に來り給へ入會金等は一切免除して居るげな(導知生)▲近來は雪降ると直ぐ凍る爲め小學校生徒等が道路の眞中で氷すべりをやらかして遊んで居るため通行者の迷惑ばかりでなく夜間等は其爲め人殺しをする相だ先生方宜敷訓悔を乞ふ(年長者)▲明けて見ますれば新聞社も忙がしいぜ見ねて餘り仁川の花柳界の便りを見ませんが記者さん面黑い事が澤山ありますよ少し其邊の事も書いて貰い度い夫れが無いと何ダか新聞の樣にわかりません失敬(奴)▲テル女に答ふ仁川の或る堅氣の家にて雇入れたきよし仁川にて差支なければ我社支局へ申込むべし(仁川小僧)▲仁川停車場附近の或る下宿屋では下宿は表面で其實は賭博の宿であると夫れと知らずに下宿して非常に迷惑をした者があるそうだ(實見生)

●取消 本月廿六日御發行の貴紙に質屋の横領罪てふ題下に小生が期限前に流質し爲めに檢事局へ送られたりとの記事御掲載相成候も該記事は全然事實と相反し居候そは本谷三之助より昨年四月中に入質を受たるは事實に御座候も其に對する利子は八月迄の分を受領したるのみに有之且つ十月十八日該質物を他に賣却したりとあるも右は同年十二月に流質物として賣却致候ものに御座候て警察官に於ても事實を認められたる儀に候間は一回も檢事局の取調べを受けたる事毫頭無之候に就ては斯る事實相違の記事を御掲載相成候ては小生の迷惑不尠候間此段申文を掲げ該記事御取消相成度此段申候也 明治四十四年一月廿七日 京城太平町一丁目 梅尾圖八印 京城新報社御中

今日の運勢

一月廿九日 舊十二月廿九日 巳亥九紫佛滅開△二白 業務上過誤多し旅行△新事婚談の不動產上の事及連盟協同相談の事見合せの事△二黑 [illegible] △三碧 進んで吉家庭近親上の事衞生に注意すべし△四綠 [illegible] 他は進んで吉△五黃 [illegible] △六白 [illegible] △七赤 [illegible] △八白 [illegible] △九紫 [illegible]

一月卅日 舊正月一日 庚子一白先勝閉△ [illegible]

一月卅一日 舊正月二日 辛丑友引建 [illegible]

(本町五丁目三一館判斷)

